

5 安全に初期消火するために

5. 1 初期消火活動上の留意事項

消火活動には常に危険が伴います。最も大切なことは、**自分や協力者がケガをしないこと**です。自分たちの身を守るためにも、必ず以下の注意事項を守りましょう。

(1) 服装

熱や炎、落下物などから自分の身を守るために、手袋、運動靴、ヘルメット、長そで、長ズボン、防災加工の衣服等を着用しましょう。防災資器材の配置場所に防火衣等が置いてある場合には、必ず身に付けてから消火活動を実施しましょう。

なお、十分に服装が整っていない協力者は、出火場所から離れた場所で支援活動を行うように指示しましょう。

(2) 水利部署

消火を始める前には、どこの防火水槽、消火栓及び排水栓等から水を出すか判断しなければなりません。消火活動は、その時の天候や風向きも考慮し、これ以上燃え広がらないように阻止することや、いざという時の逃げ道を確保することも検討します。激しく燃えている建物に近づきすぎると、やけどをする可能性があるため、より安全に水が出せる防火水槽、消火栓及び排水栓等を決定し、活動拠点とすることを水利部署と言います。

一番大切なことは、住民のみなさんがケガをしないことです！！

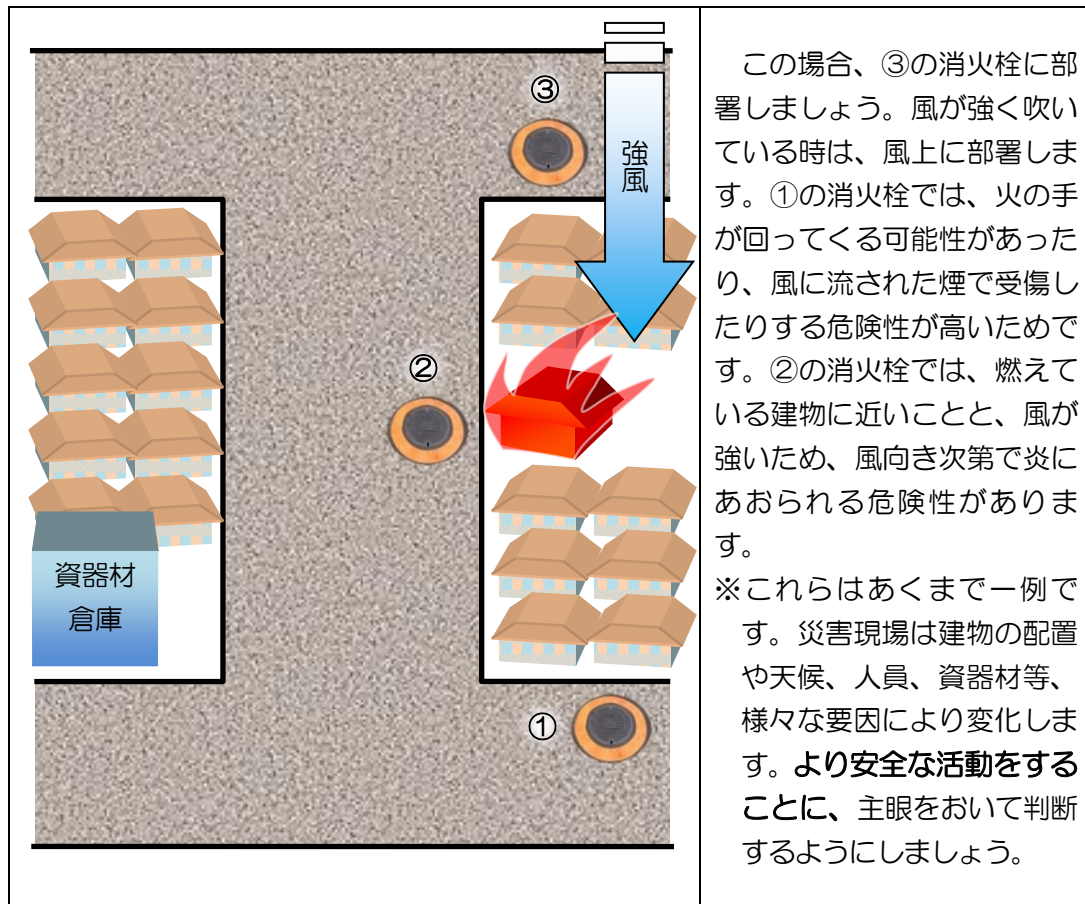


ア 水利部署の例①

The diagram shows a building layout with a central corridor. On the left is a '資器材倉庫' (Equipment Warehouse). On the right is a residential building with a fire. Three fire hydrants are marked: ① at the bottom left, ② in the middle of the corridor, and ③ at the top right. A fire is shown burning in the residential building, with red flames and smoke. A speech bubble from the firefighter above points to the hydrant locations.

この場合、①の消火栓に部署しましょう。②の消火栓では、燃えている建物に近すぎて、やけどをする可能性があります。③の消火栓では、資器材倉庫から遠い距離にあるため放水までの時間がかかることが予想されます。一方、①の消火栓であれば、資器材倉庫からも近く、退路が確保できるため、**安全な拠点**として活動ができます。

イ 水利部署の例②



(3) 消火活動時

ア 隣の家に燃え広がるなど、身の危険を感じたら消火活動を中断し、避難しましょう。

自分の身の安全を第一にしてください。また、断水時はスタンドパイプが使用できないので、D級可搬消防ポンプや消火器を活用しましょう。

イ 風が強く吹いているときは、**風上から**消火を行います。風下には火が回る危険がありません。

ウ 燃えているものに直接放水することが最も効果的ですが、燃えている建物内部は煙が充満していたり、落下物のおそれがあることから、**路上や屋外から**建物内に向けて放水します。また、燃え広がるおそれのある所に、放水することでそれ以上燃え広がらないようにすることも考慮しましょう。

エ 建物の玄関や窓などの開口部正面に位置するのは避けましょう。開口部から、急に**火炎が噴き出してくる**ことがあるので危険です。また、炎にあおられないよう、燃えている建物に近づきすぎないようにしましょう。

オ 絶えず火災の状況に気を配り、火に囲まれることのないよう、**避難の方向を確保**して活動しましょう。

カ 付近にいる人に応援を求め、協力しましょう。人数が多くなれば活動がしやすくなります。